

星の王子さま

本江 瑛南

ボッカーン。飛行機がつい落。ここから新しい出会いが始まり「ぼく」は別の世界を学ぶことができた。不思議な王子さまとのそう遇。様々な星への旅の話。

この素晴らしい本との出会いは、母の友人のおかげである。読書感想文の本を探している私に迷わず勧めてくれたからだ。

王子様の星には綺麗なお花が一本ある。気難しくて、決してけんそんしない。宇宙で一本しかないと思っていた花。でも地球に来たら同じ花がいっぱいあった。その花は「バラ」だった。それでも、王子さまのお花は宇宙で一本だと思う。自分で育てたからだ。一緒に話をして、食事をあげて、お願いされるままにガラスの覆いをかけてあげて。

私は、同じ人間はない、ということと同じだと思う。自分は世界で一人だけの特別な存在だと知る事ができた。どんなに顔が似ていても、どんなに性格が似ていても、自分みたいないないと感じた。ありのままの自分で生きていいということが大切なことも、強く感じた。みんな、「この人がうらやましい」と感じることもあると思う。私も何回もある。スポーツがすごく上手だったり、楽器が上手に弾けたり、うらやましくなるのは普通だと思う。それはそれでいいんだ。でも周りの人と比べて自分を小さく感じたり、なんでダメなんだろう、なんてがっかりしなくていい。ありのままでもいい、ということをお忘れなくいいということをお学んだ。私は、特技がなく生きてきた。周りの人をうらやましいと思うだけだった。でもこの話を読んで、絶対何かあると感じた。

そして、気づいた。私にはこんな素晴らしい本をすすめてくれる大人が周りにいる。悩みを相談できる友人もいる。遠く離れていても、インターネットを通じて会話できる友達もいる。それが、普通なんだ。当たり前、と思って大事なことに気づいていなかった。だけど星の王子さまのおかげで、周りの助けにくれた人や、いつも一緒に過ごしてきた人々が、私にとって貴重な存在なんだということ、その人たちも世界に一人しかいないんだということに改めて気づく事ができた。そして、それは私が私らしく生きてきたからこそ出会い、築いてこられたんだと。

王子さまは長い旅の最後にバラの花にしてやらなくてはならないことがある。といって自分の星に帰っていった。旅のおかげで大事なことに気が付いたのだ。

気づくというのはなんて、輝かしいことなんだろう。これからも自分を見失わず、頑張って、ありのまま生きていこうと思えるようになりたい。